

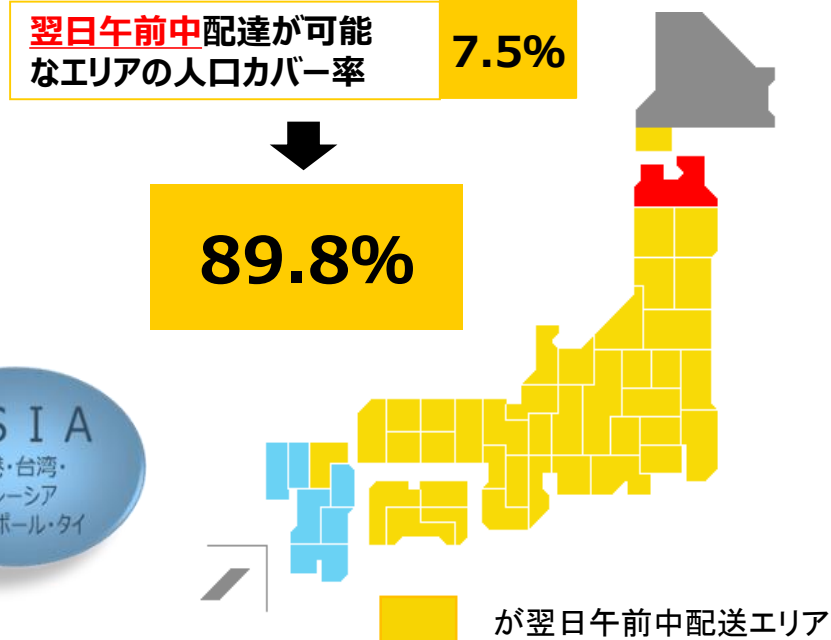
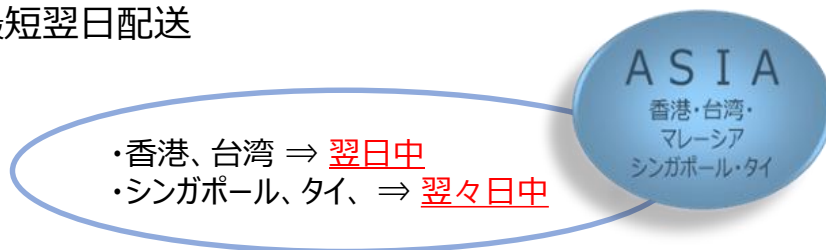
青森県総合流通プラットフォーム A!Premium

令和4年度の実績



青森県とヤマトグループとの連携協定に基づき、同グループが提供する「スピード輸送」と「保冷一貫輸送」を両立させた小口配送が魅力の物流サービス

- ・航空機を使用した「スピード輸送」で、翌日午前中配達エリアを大幅に拡大
- ・鮮度、品質を維持した「保冷一貫輸送」で、西日本での販路拡大を支援
- ・アジア圏へ最短翌日配送



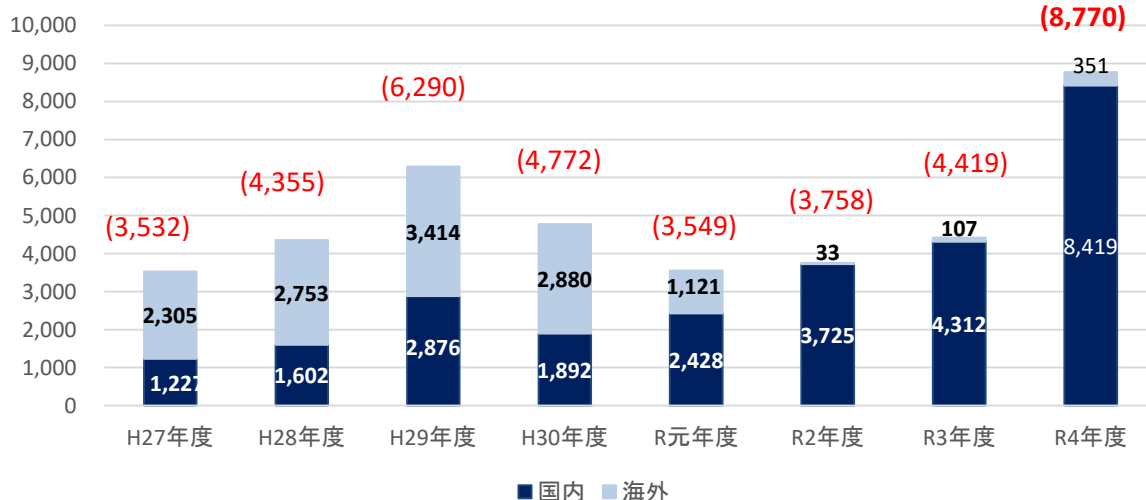
新型コロナウイルス感染症の影響による航空路線の運休・減便等のため、令和4年度の「A!Premium」輸送サービスは次のとおりとなっている。

- 国内向けサービス
令和2年6月から陸送等での特別運行で対応中。
(中部・関西は翌日午後お届け、中四国・九州・沖縄は翌々日お届け)
- 海外向けサービス
令和4年8月から新スキームでサービス再開。

「A!Premium」の国内は過去最多を更新、海外は輸送サービスを再開！

- 令和4年度も、新型コロナウイルスの感染拡大により、輸送サービス面や飲食店等の営業面に影響があったものの **8,770** 個と好調で前年度と比較して **198%** の増加となった。
- 国内は、前年度に引き続き増加傾向で「全エリア」で取引が増加。またECサイトを活用した販路開拓により「関東エリア」や「関西エリア」での取引が増加となっている。
- 海外向け輸送サービスが令和4年8月から再開し、香港やバンコクなどに輸送している。

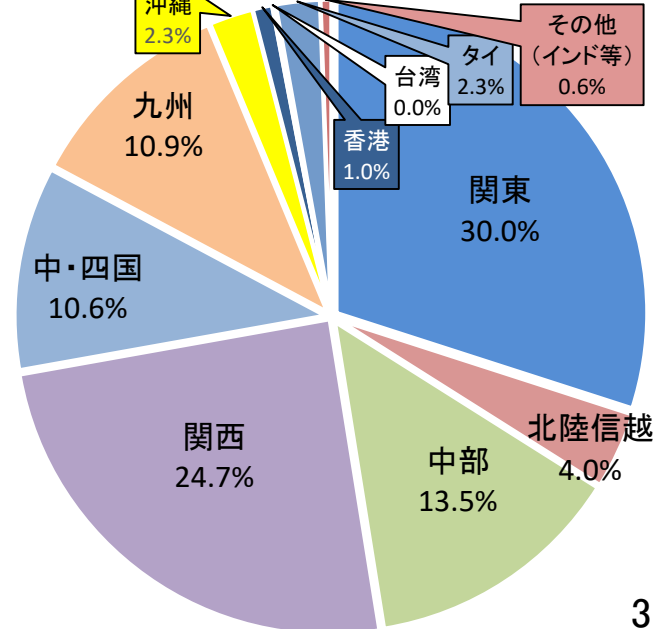
A! Premium国内・海外内訳



国内は3年連続で過去最多を更新

()は国内・海外の合計

A! Premium仕向先内訳

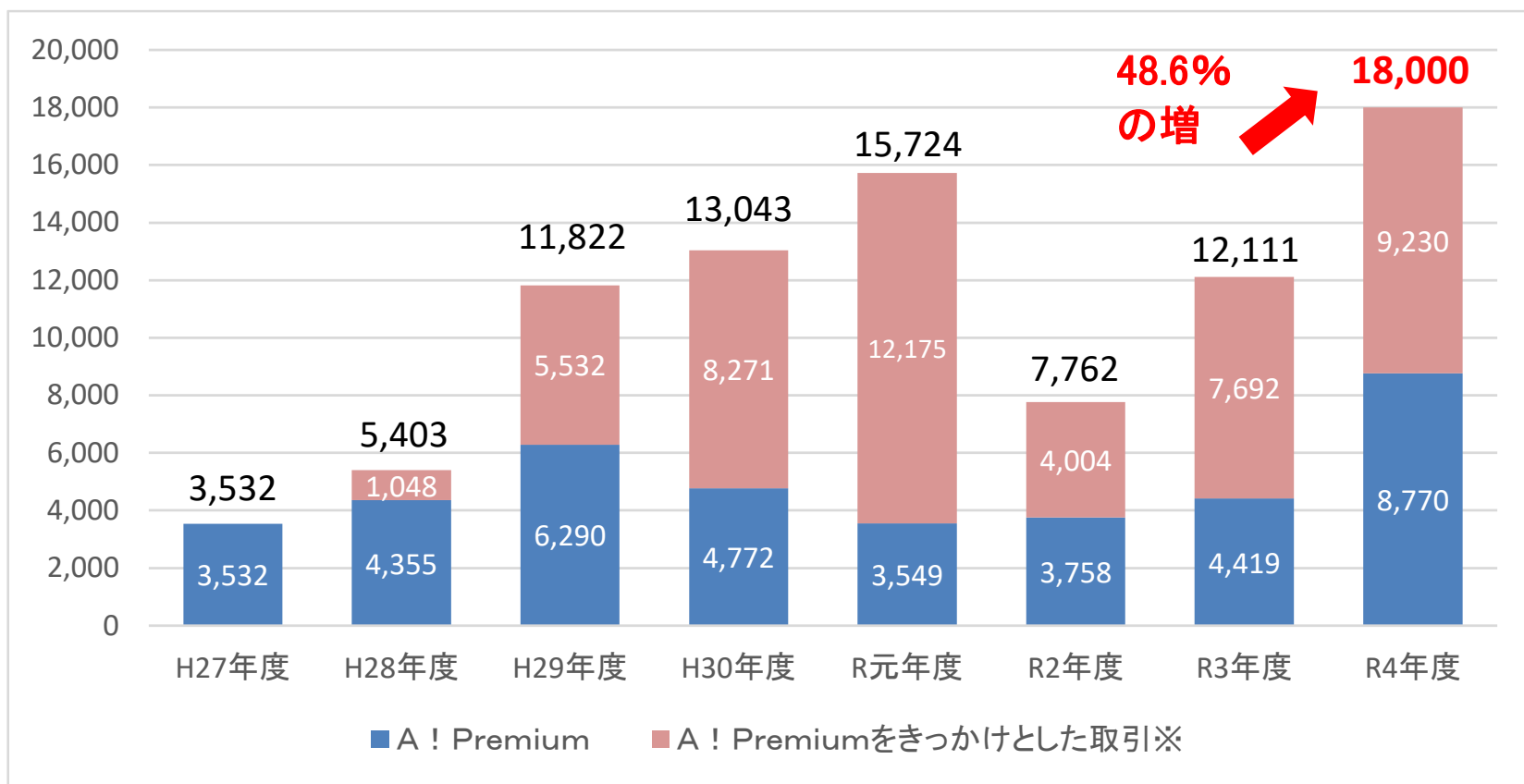


2-2. 令和4年度利用実績

「A!Premium」関連の取引は、国内は3年連続で回復、トータルでは過去最多を更新

- 「A!Premium」関連取引の利用実績は、18,000個となり、前年度と比較して**48.6%の大幅な増加**となっている。

(単位:個)

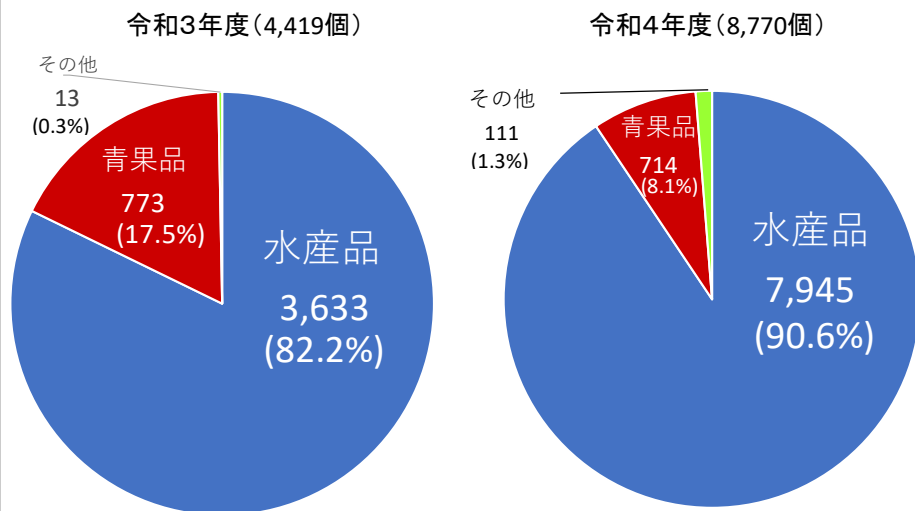


※上図の「A!Premiumをきっかけとした取引」は、アンケート調査（回収率36.1%）等により把握できた、「A!Premium」をきっかけに始まった商取引で、かつ、「A!Premium」以外の輸送手段で運ばれたことが、アンケート調査等により確認できた荷物の個数

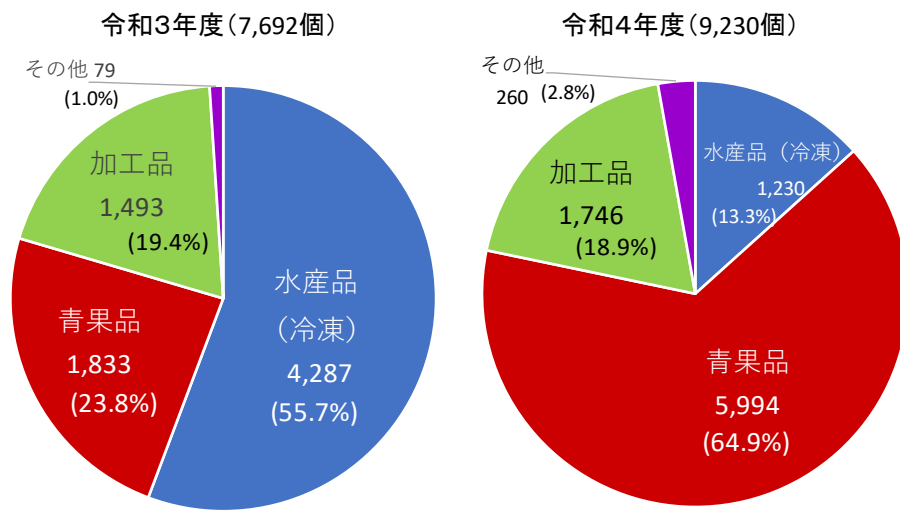
水産品の取引が伸長（大手回転寿司チェーンのホタテ）

- 高鮮度で全国各地に青森県産品をお届けする「A!Premium」では、取引品目の約9割を水産品（鮮魚、貝類等の生鮮品）が占める。令和4年度の利用実績は、昨年度と比較して2.2倍（3,633個→7,945個）となっている。
- 「A!Premium」の営業をきっかけとした取引では、冷凍ホタテなどの水産品（冷凍）が減少（4,387個→1,230個）している一方、りんごや桃などの青果品は増加（1,833個→5,994個）している。

A!Premium品目別内訳



A!Premiumをきっかけとした取引の品目別内訳



香港Food Expoへの出展、香港飲食店等へのプロモーション

新型コロナの影響で令和2年4月から停止していた「A! Premium」海外輸送サービスが令和4年8月に再開。香港Food Expoへ出展し、高鮮度で運ばれたホタテや桃など22品目を出展し、本県食材の魅力をPRしました。



引き続き12月には、Food Expoで青森県産食材に興味をもった飲食店等を対象に、現地（香港）で試食商談会を開催。本県のサプライヤーもオンラインで参加し、香港での販路開拓に取り組みました。

【営業活動】

- 新型コロナウイルスによる外食等の自粛の影響を受けつつも、アフターコロナを見据え、従来取引があった飲食店などへ積極的に営業活動を展開。本県への産地訪問や西日本エリアの飲食店にサプライヤーとの同行営業を行うとともに、青森ならではのフェアやイベント開催を働きかけ、販路拡大や青森県産品の知名度向上に取り組みました。

【産地訪問】

- 県産品の取引に関心を示す飲食店等が産地を訪れ、県内事業者と個別商談を行う取組も継続。令和4年度は **14組26社**（前年度13社）の飲食店等が青森を訪れ、**延べ130社**（前年度77社）の県内事業者と個別商談を実施し、多くの取引につながりました。



【訪問営業の仲介・同行】

- 県内事業者が、西日本において個別商談を行う際の仲介や同行も継続。令和4年度は **7社**（前年度6社）の県内事業者が、**延べ23社**（前年度26社）の西日本の飲食店等と個別商談を実施し、県産食材の認知度向上に係る取組をサポートしました。



県外飲食店等関係者による産地訪問
（写真上：長いも圃場、写真下：海峡サーモン養殖）

産地訪問をきっかけとした西日本でのメニュー展開

・1月に産地訪問で来青した「ソウルメイトイレブン様」が2~3月限定でホタテ、トゲクリガニの贅沢なメニューを展開し、人気の一品となっています。

「佐賀県 ソウルメイトイレブン」様



・6月に産地訪問で来青した「ワンズマテリアル様」が、夏のフェアでホタテのフライやガーリックバター蒸し、お味噌汁等、様々なメニューを展開し、好評を博しました。

「大阪府 ワンズマテリアル」様



「広島県 貝や廉」様

←3月に産地訪問で来青した「貝や廉様」で通年提供している『貝刺し』。メニューには、青森県で獲れた貝を豊富に採用していただいています。

西日本エリアの飲食店等が開催する青森県フェアが好調！

- ・令和4年度は、新型コロナウイルスの影響が残るものの、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた営業活動を展開し、青森県ならではの様々なフェアやイベントが開催されました。

「兵庫県 森の農様」



「京都府 マルシェノグチ
・レストランテ野呂様」



「鹿児島県 ユニオン産業様」



森の農様（兵庫県西宮市）にて青森商材イベントを開催。10月と2月と計2回開催され、アンコウ鍋やホタテ、ながいも、りんごなどを使用した料理が提供されました。また日本酒のオンライントークイベントに加え物販や受注販売も行い、昼夜ともに青森県産品を堪能できるイベントとなりました。

令和4年9月にマルシェノグチ様（京都三条会商店街）で開催された青森県産品の販売イベントでは、嶽きみでが販売されたほか、レストランテ野呂様では桃を使用したスープや毛豆、りんごジュースなども販売され、県産品のPRも行いました。

9月に鹿児島県の「海鮮うまいもんや磯之家鹿児島中央駅本店」において、青森県フェアを開催。産地直送の海鮮を使用した寿司や、長いもの鉄板とろろ焼き、丸ごと揚げにんにくなど、青森県の食材をふんだんに使用したメニューが採用されました。

ライブコマースを活用した販路拡大の取り組み

- ・コロナ禍での新たなニーズに対応するため、県と事業者が連携しライブコマースを活用した県産食材の販路拡大にも取り組みました。
- ・2時間半の配信時間で、県産の桃やりんごジュース、水産加工品、クラフトビールなどを販売。視聴者は500名を超え、多くの商品が完売。生産者も出演し、桃作りにかける想いや情熱が視聴者の皆様に伝わり、好評を博しました。



青森女の桃!!
津軽で育った果汁たっぷりの桃

平成3年の台風19号の影響で、青森県では収穫前のりんごの落下やりんごの倒木が発生し、約741億円もの被害を受けました。青森県津軽地方の南方に位置する、きむら果樹園は「りんご農家を生き残らせるためには、青森を代表する新たなモノをつくらねば」と決意し桃の栽培を始めました。

最初は「青森で桃なんて」と周りから受入れられませんが、親子2世代にわたり地道に努力を重ねました。



事業者と連携した初めてのライブコマースは、多くの視聴者に生産者の思いが伝わり大好評でした。



E Cサイトを活用した家庭食向けの販路拡大

- 昨年度に引き続き、お取り寄せ需要の増加に伴うEC市場の急成長など、社会情勢の変化に対応するため、ECサイトを活用した家庭食向けの販路拡大を推進。
- 令和4年度は、家庭向け食材販売サイトと連携し、「食材+県産酒」などの県産品を組み合わせた「セットメニュー」にチャレンジ。
- ECサイトに加えて会員向けカタログ通販での販売も並行するなど、家庭用に向けた多面的なPRを展開。
- また、料理研究家のインフルエンサーと連携し、調理しながら県産食材を紹介するライブ配信等、家庭食向けECサイトにおける県産品の販売促進に取り組みました。



カタログ販売に掲載された
県産食材のセットメニュー

料理家研究家インフルエンサーと連携したライブ配信
(写真左：事前予告、写真右：ライブ映像)

4. 令和5年度の方向性

- 「A! Premium」の国内輸送スキームの再構築を目指す。
- 海外向けの取引について、昨年度の香港Food Expoに引き続き、これまでの取引先との取引再開や新たな商流の構築に向け、積極的なプロモーション展開する。
- 国内向けの取引について、引き続き、仕向け先(エリア)や営業先の業種・業態のターゲティングを行い営業活動を進めるほか、本県ならではの食材を掘り起こし、その魅力を伝え、県産食材の認知度向上と取引拡大を目指す。
- 家庭食向けの販売が、引き続き堅調である現状を踏まえ、ECサイトを活用した家庭食向けの販路拡大を目指す。

《令和5年度の目標》

20,000個

(「A! Premium」及び「A! Premium」をきっかけとした取引の合計)